

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「コンビニ CO2 4割減らせる」
- 2) 「ワイン沈殿物 再利用」
- 3) 「ミドリムシが地球を救う?!」
- 4) 「台東デザビレ」

1) 「コンビニ CO2 4割減らせる」

東大とローソンは、約 30 種類の省エネ対策を組み合わせることで、コンビニ店舗での CO2 排出量を 10 から 40%削減できる見通しだと発表した。

5月から始めた共同研究の成果だ。同社の首都圏3店舗で、揚げ物の調理機器の電源を深夜オフにする、空調機のフィルターを定期的に清掃するなどの対策を実施し、省エネ効果の分析を重ねた。効果は立地条件や店の建設時期にも左右されるという。

コンビニ深夜営業停止のニュースでは賛否両論あったが、まずはこういったエネルギー節約から徹底して行っていくことが重要ではないだろうか。

2) 「ワイン沈殿物 再利用」

メルシャンは、ワインの製造工程で生じるブドウの皮や種、酵母のカスといった沈殿物をパルプに混ぜて紙を作る技術を開発し、この紙をラベルに使った商品の販売を始めた。沈殿物の排出量は年間約5トンに上るが、これまではすべて廃棄していた。再利用することで、廃棄量を年間約1トン減らせる。さらに、紙に沈殿物の細かい粒子が混じり、素朴な風合いも出せるという。「メルシャンおいしい参加防止無添加ワイン」シリーズの720ミリリットル瓶に採用されている。

廃棄物の再利用は近年各メーカーで徐々に実施されてきていることだが、ワインメーカーが環境保護を目的としてパルプと廃棄物を混ぜ紙を作る技術を開発するということはめずらしい。さらに、廃棄物の沈殿物を混ぜることによってより素朴な風合いのラベルができ、結果商品のデザインが良いものとなることは、近年高まるエコ活動の中でも好例だと言える。

3) 「ミドリムシが地球を救う?!」

世界規模で直面している地球温暖化と食糧危機への手だてとして、ミドリムシを活用する研究が進んでいる。

原生動物でありながら光合成をするミドリムシは CO₂ の固定効率が高いだけでなく、水や栄養塩、太陽光と CO₂ だけで、必須アミノ酸や必須脂肪酸、ビタミン、ミネラルなど人間に必要な栄養素のほとんどを作り出すことができる。

ミドリムシは学名を「ユーグレナ」といい、水田などの淡水に生息。体長は 30 ミクロンから 50 ミクロンで尻尾のような鞭毛を動かして運動する一方、葉緑素を持ち光合成を行う。地球上で唯一の動物と植物の中間的微生物。

約 30 年ミドリムシを研究している甲子園大栄養学部教授で大阪府立大名誉教授の中野長久氏は、「これほど環境浄化に優れた生物はいない」と言い、光合成による CO₂ の固定効率は、イネが 0.7%、トウモロコシが 1.5% に対し、ミドリムシは 30%。炭素濃度が高ければ固定効率はさらに上がり「25%の CO₂ が含まれる鉄工所の排煙なら固定効率は 78%になる」という。

東京のベンチャー企業が大量培養に乗り出し、「排出権取引ビジネスにも応用できる」と期待を寄せているほか、大阪の老舗昆布店は高い栄養価に着目し、自社の塩昆布にミドリムシの栄養成分を溶け込ませた新商品やサプリメントの開発に挑戦している。

昔、理科の授業で習ったミドリムシにこのような力があるとは知らなかった。「ムシ」と聞くとは少し勇気がいるが、「ユーグレナ」ならばまだ受け入れやすいだろうか。「体に良い」「ダイエットに効く」というウワサが広まるとその商品に飛びつく消費者が多い中、一般消費者がミドリムシに注目を寄せる日も近い将来やってくるのか・・・？！

4) 「台東デザビレ」

台東デザイナーズビレッジの略。東京・台東区が廃校となった区立小学校の校舎を活用して、2004 年に開設した施設。

ファッションやデザイン分野の創業支援を目的としたもので、現在クリエイター 19 組が入居している。入居の条件は創業を志すか、創業 5 年以下の企業・個人で、入居期間は最長 3 年。賃料は約 20 平方メートルで 2 万 9000 円（共益費込み）と格安で、ビジネスや税金について専門家のアドバイスを受けることができるのもメリットである。

ひとくちにファッション関係といっても、デザイナー、アクセサリ製造、革製品、文具、オリジナル靴下製造と幅広い分野の人がいるので異業種とのつながりもでき、孤独な作業に埋もれがちなクリエイター同士が互いに刺激を与え合うことにつながるようだ。

こういったファッションやデザイン関係の創業支援施設は全国で初めてである。入居期間が決まっていることでダラダラと長居することもなく、創業仕立ての同じような人と刺激し合える今後も注目される施設となりそうだ。